

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フォレストキッズ千種教室			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達障害に特化した専門性の高い支援 フォレストキッズ千種教室では、発達障害の特性に配慮した専門的な療育を提供しています。感覚統合、言語や学習の支援、社会性の発達など幅広い視点から子どもの成長をサポートしています。セサメントを重視し、子ども一人ひとりの発達段階や特性を把握したうえで、適切な支援内容を検討しています。	子ども一人ひとりの発達段階や特性を把握するため、アセスメントを大切にしながら支援計画を作成しています。感覚統合や言語支援、認知・行動面の支援など、多面的な視点から子どもの発達を捉え、ステップで課題を設定することを意識しています。また、子どもが安心して活動に取り組みめるよう、視覚的な手がかりや環境設定を工夫しながら支援を行っています。	支援の質の向上を目指し、職員間での情報共有やケース検討を行いながら支援方法の改善に取り組んでいます。また、研修や勉強会を通して発達支援に関する知識や支援技術の向上を図り、子ども一人ひとりの特性により適した支援を提供できるよう努めています。
2	個別療育と集団療育を組み合わせた支援体制 一人ひとりの特性に合わせた個別療育と、小集団での活動を組み合わせた支援を行っています。個別療育では子どもの課題に応じたスキルの習得を目指し、集団療育では対人関係や社会性の発達を促します。個別で身につけた力を集団の場で活かすことで、実生活につながる経験を積むことができます。	子どもの発達段階や課題に応じて、個別療育と小集団での活動を組み合わせた支援を行っています。個別療育では子どもの特性に合わせた課題に取り組み、基礎的なスキルの習得を目指しています。また、集団療育では他児との関わりを通して社会性やコミュニケーションの力を育むことを意識しています。個別療育で身につけた力を集団の活動の中で活かせるよう支援しています。	個別療育と集団療育の連携をより高めるため、支援内容や子どもの成長の様子を職員間で共有しながら支援の統一を図っています。また、子どもが安心して集団活動に参加できるよう環境設定や活動内容を工夫し、子ども同士の関わりが広がる機会を増やしていくことを目指しています。
3	保護者支援と家庭との連携 子どもの成長を支えるためには家庭との連携が重要であるため、保護者支援にも力を入れています。療育の様子や共有や面談を通して、家庭でも取り組める関わり方をお伝えしています。保護者の悩みや困りごとにも寄り添いながら、家庭と事業所が協力して子どもの発達を支えていく体制づくりを大切にしています。	療育の様子や子どもの成長の様子を保護者と共有することで、家庭と事業所が連携して子どもの発達を支えていくことを大切にしています。面談やフィードバックを通して、家庭でも取り組みやすい関わり方や支援方法をお伝えし、保護者の不安や悩みに寄り添いながら支援を行っています。	保護者との情報共有をより深めるため、日々の支援内容や子どもの様子を丁寧に伝える機会を増やし、家庭での様子についても共有していただける関係づくりを目指しています。また、保護者が安心して子育てに取り組めるよう、相談しやすい環境づくりや継続的なサポート体制の充実にも努めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会の少なさ 保育所や幼稚園、地域の子どもたちとの交流機会が十分に設けられていない点が課題として挙げられます。事業所内での療育活動は充実していますが、地域の中での関わりを広げる機会はまだまだ多いとは言えません。	主に事業所内での活動が中心となるため、地域の子どもたちとの交流機会を設けることが難しい状況があります。また、安全面への配慮や活動時間の制約などもあり、地域との交流を計画的に実施する機会が十分に確保できていないことが要因と考えられます。	地域とのつながりを広げるため、地域イベントや公共施設の利用など、地域の中で活動できる機会を検討していきます。また、地域との関係機関との情報交換を行いながら、子ども同士の交流の場を少しずつ増やしていくことを目指します。
2	関係機関との連携体制のさらなる強化 保育所・幼稚園、小学校、医療機関などの関係機関との情報共有や連携については、さらに充実させていく必要があります。子どもが生活するさまざまな場面で一貫した支援が行われるよう、関係機関との連携体制をより強化していくことが課題です。	保育所や幼稚園、小学校、医療機関などの関係機関と連携する必要性は認識していますが、日々の療育業務の中で情報共有の機会を十分に設けることが難しい場合があります。また、関係機関との連携方法や情報共有の仕組みについて、より整理していく必要があると考えています。	関係機関との情報共有の機会を意識的に設け、子どもの支援内容について共通理解を深めていきます。また、就学時の引き継ぎや必要に応じた連絡・相談を行うことで、子どもが安心して次の環境へ移行できるよう連携体制を整えていきます。
3	保護者や地域への情報発信の充実 療育の取り組みや活動内容について、保護者や地域に対して十分に発信できていない部分があります。事業所の活動や支援内容をより分かりやすく伝えることで保護者の理解や安心感につなげていく必要があります。保護者同士の交流や情報共有の機会についても、今後検討していく必要があります。	療育活動や支援内容については日々のフィードバック等でお伝えしていますが、事業所全体の取り組みや活動内容を保護者や地域に対して十分に発信できていない部分があります。また、保護者同士が交流できる機会についても、これまで十分に設けることができていませんでした。	通信やSNSなどを活用しながら、療育の内容や事業所の取り組みについて分かりやすく情報発信を行っていきます。また、保護者同士が交流できる機会についても検討し、保護者が安心して相談や情報交換ができる環境づくりを進めていきたいと考えています。